

コロナウィルス感染症は2023年5月8日から感染法上の分類が5類に移行しましたが、陽性者が減少する状況ではありませんので、当院では引き続き感染症対策には万全を期して参ります。発熱外来の適応条件は一部緩和しましたが、当日37.1度以上、あるいは医師が必要と判断した患者様（原因不明の熱があった、倦怠感、咳嗽、咽頭痛など）にはコロナ検査をお願いしております。その旨、受付に申し出て頂き、発熱外来待合室に御案内いたします。小児の発熱患者様は、ドライブスルー方式で検査後に、小児科外来にご案内いたします。

なお、発熱外来の運用状況は、県や市町村の定点調査など近隣の感染状況のフェーズを考慮しながら、適宜変更していきます。当院の発熱外来の運用にご協力をよろしくお願いいたします。

1

正面玄関への体温サーモグラフィー導入

当院では2020年7月31日に正面玄関にサーモグラフィー（AIサーマルカメラ）を設置いたしました。入り口で人物を認識しカメラで顔写真を撮影。数秒で体温計測が出来ます。

設定された体温（季節により変動）以上の患者さんを感知すると警告音（ブザー）が鳴り、個別に対応させていただきます。



2

入口の手指消毒

当院にご来院の患者さんには入口で手指消毒液をご用意しております。プッシュ式は車椅子の方でもご利用しやすい高さに設置（2台）さらに足踏み式手指消毒も設置しており（1台）玄関口で患者さん同士が混雑しないよう複数設置しております。



3

「不織布」マスクでのご来院のお願い

■ マスクやフェイスシールドの効果 (スーパーコンピュータ「富岳」によるシミュレーション結果)

対策方法	なし	マスク			フェイスシールド	マウスシールド	
							
		不織布 	布マスク 	ウレタン 			
	吐き出し飛沫量	100%	20%	18-34%	50%※2	80%	90%※2
	吸い込み飛沫量	100%	30%	55-65※2	60-70※2	小さな飛沫に対しては効果なし (エアロゾルは防げない)	

※2 豊橋技術科学大学による実験値

フェイスシールドはマスクと併用で使いましょう

マウスシールドはほぼ効果がないようです。

マスクも種類によって効果が違います。

2023年3月13日から、マスクは個人の自由意思になりましたが、医療機関では引き続きマスク着用をお願いしております。国や県からも通達が出ておりますので、院内でのマスク着用には引き続きご協力をお願いいたします。マスクは不織布マスクでないと効果が減弱することは確定しており、掲示板でもご理解いただけるようご案内しております。また、院内では不織布マスクの自動販売機も設置しており購入することも可能です。

4 職員のフェイスシールド・及びマスクの着用

当院では直接患者さんと接する機会がある職員全員にフェイスシールドの着用を義務付けております。また、再来受付・総合受付・会計ではパネルを設置しております。職員は不織布マスク着用の義務もあるので、マスクとフェイスシールドで患者さんのお声が聞き取りにくい場面もあるかと思いますが、徹底的に感染対策に取り組むことにより患者さんへ安心感をもたらすことが出来ると考えておりますので、どうかご理解頂けますようお願い申し上げます。



待合室では十分なディスタンスが取れるような椅子の配置と、付き添いの方以外は、間隔を空けてのご利用にご協力頂く旨のポスター周知などで、待合患者さん同士が密になるのを防止しています。また全館には24時間換気空調システムを設置しており、安全と適切な温度調節が保てる範囲内で、窓やドアを開け、診察室など常時換気しております。

5 自動受付機・自動精算機の設置

現在、受付と会計には自動受付機と自動精算機を設置しております。こちらをご利用いただくことで、職員と患者さんが対面で接することがなくなり、感染のリスクを減らすことができます。自動受付機と自動精算機はタッチパネル式となっておりますので、ご利用後は手指消毒にご協力ください。

